海外留学のすすめ（実験医学コラム掲載予定）2021 年 2 月 5 日

順天堂大学大学院医学研究科　循環器内科　教授
南野　徹

海外へ留学する一次的な目的は多様であると思いますが、私が留学を勧めるポイントは共通しています。一つは、海外留学によって「多様性を許容する素地を磨く」ことです。日本でも海外国籍を持った方々が増えているとはいえ、欧米に比較するとその多様性は極めて低く、概ね類似した教育を受け、類似した思想や哲学を持っている（空気を読める）ことが多いのではないかと思います。それに対して、欧米（特に米国）では移民が多く居住し、宗教・哲学・思想・人種は極めて多様です。貧富の差も激しく、分断が生じている面もあります。私がボストンへ留学した際、低所得者に与えられる日常食品の購入クーポンを受け取る前に、「紙や土などを食べたことがあるか？」というアンケート項目があって驚いたことを覚えています。大学の事務へお願いした案件が、なかなか進まないこともしばしばありました。しかしながら最終的には、世界に対して圧倒的なパワーや技術力を示しているとともに、新規なものを生み出す総合力を持っています。これに対して日本では、なかなか独自性の高い技術やコンセプトが輩出されないのが現状です。これについては、多様性を許容する素地が根付いていないことが根本的な原因ではないかと考えます。その結果、新規性の高い考え（あるいはそれを持つ人材）を受容しないばかりか、排除してしまうことにつながっているように感じます。もう一つ、可能な限り一流の施設に留学することをお勧めします。どのような一流の施設であっても、極めて高い能力を持っている方々はごく一部であり、決して日本の施設や人材が追いつけないレベルではないことを実感することも重要です。最後になりますが、皆さんの海外留学が実りあるものとなって、日本の発展につながることを切に願っております。